



2020年4月1日、社会福祉法人いたるセンターでは、8名の新入職員をお迎えしました。皆様のあたたかいご支援をお願いいたします。



日頃は、社会福祉法人いたるセンターに多大なるご支援ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。さてこの度、社会福祉法人いたるセンター・2019年度・総括」を策定しましたので、ご報告申し上げます。

2019年度 総括

いたるセンターは、地域において「一人も取り残さない」ための社会福祉サービスを提供し、地域包括ケアを意識したコミュニティの拡大を図ります。

■ 具体的な取り組み

(1) ALLいたる「就労継続支援B型・自主生産品製造・販売グループ」アマメーバ単位を立ちあげます。

▼ アメーバ経営において、就労継続支援B型の重点項目シートを改善し、工賃をはじめとする数値を表記することで、進捗を明確にしました。就労継続支援B型の法人全体の平均工賃は、昨年度対比で上昇しています。キッチンカーの稼働も昨年度対比で倍増し、久遠チョコレート2店では活躍するご利用者様が増えたことで生産・販売力が上がり、工賃アップ

(2) 就労継続支援A型事業部は、パン事業部の工賃アップに努めます。

▼ 就労継続支援A型の事業部では、杉並区立保育施設全園へのパン提供が確立でき、着実な収益体制を作りました。幼稚園等への導入も増加傾向にあります。パンおよびチョココレートの催事販売についても、JR駅構内からデパート、ショッピングモールなどでパレンタインダーの外販を行い成果が上がりました。

(3) 学童保育、看護ステーション等を立ち上げます。

▼ 7月、杉並地区に「いたる訪問看護ステーション」(看護師5名)を開設しました。学童保育とリハビリ型デイサービス、就労型放課後デイサービスについては、条件に合致する案件等がありませんでした。

(4) グループホーム事業の拡大を図ります。

▼ 女性専用グループホームは、世田谷区に2拠点(3ユニット・定員17名)、目黒区に1拠点(1ユニット・定員6名)を整備しました。共生型グルー

(5) 求める人材の多様化を推進します。

▼ 外国人の採用は順調に進展し、海外技能実習生含む14名が各事業部で活躍しています。

(6) 通所事業も含め、新たな事業に果敢に挑戦します。

▼ 高齢者の看取りまで行う訪問看護事業の立ち上げにより、「ゆりかごから墓場まで」の総合的な福祉・介護・看護等の一連のサービスが完成に近づきました。また、共同生活援助(グループホーム)3拠点の新設、三井ソーシャルオフィス事業部の「SDGs推進室」への名称変更など、「一人も取り残さない」地域包括ケアについても大きな進展がありました。

以上のように、昨年度も積極的に様々な取り組みを行い、堅調に推移しました。今年度も変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

目次 contents

01 2019年度
いたるセンター 総括
谷山哲浩理事長

02 2019年度
事業部 総括

03 * 阿佐谷福祉工房
* あげぼの作業所
* 目黒本町福祉工房
* イタル成城
* 包括ケアセンター・グループホーム
* ビヨビヨおうちえん
* パン工房プクブク

04 2019年度
事業部 総括
新型コロナウイルス感染症拡大にともなう法人運営の考え方
法人見学ツアーについて

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費 1,050円(何口でも可)
郵便振り込み 00110712892
(間) 330927346 事務局山本まで

2019年度 いたるセンター 総括
社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 哲浩

2019年度 事業部 総括

阿佐谷福祉工房、あけぼの作業所、目黒本町福祉工房、イタール成城、包括ケアセンター・グループホーム、ピヨピヨおうちえん、パン工房ブクブクの昨年度の事業総括を発表いたします。

阿佐谷福祉工房

施設長 池田 佳津男

2019年度はご利用者様への支援の充実のため、職員が一丸となって取り組む方針を掲げました。

職員個々の支援スキルを向上させるために、「現状よりも利用者様支援の質を向上させるためにはどのようなすれば良いか」について、まずリーダー以上で会議を重ね検討しました。その結果、支援の質を向上させるためには職員スキルの標準化が必須であり、それを推進するためには「職員として最低限備えていなければならない能力を規定すること。そしてその内容について職員全員が納得し、共有していること」即ち「職員の能力標準の規定と共有」が必要という認識に至りました。下期にはその議論を踏まえ、職員の納得感が得られるようにそれぞれの職員が考えていること、感じていることに耳を傾

あけぼの作業所

所長 高木 知子



I 顧客満足度No.1事業所を目指す

4月に特別支援学校から2名の新卒者、9月・11月に一般就労より中途の利用者様を2名計4名の新規入所者を迎えました。特支在籍生の見学も随時行っており、隣接区である練馬区や中野区からの入所希望もあります。今後も魅力的な作業所No.1になるよう目指します。

II 地域に開かれた施設を目指す

地域よりボランティア希望や引きこもりを持つご家庭からの相談、町内会との連携、杉並工業高校のインターシップの受け入れを行っています。あけぼのまつりでの交流はもちろんのこと、近隣の行事や小中学校と連携し、あけぼのを知って頂く機会を増やします。

III SO9001認証事業所に

恥じない品質マニュアルの整備

P D C Aサイクルを用い品質マニュアルの整備を継続します。誰もがマニュアルを使用することで標準化出来るよう整備します。

IV アメーバ経営の定着と推進

法人の中でも先陣を切り、リーダー中心のアメーバ経営を展開

しています。経営の視点を持つ職員が増えるようグループ運営をしました。ベクトル合わせをして、経営に参加する体制を整えました。

V 職員の専門性の向上

職員の社会人基礎力、業務の質、連携が一定でなくスムーズに進まないことがありました。外内部の研修以外にも事業部内で、社会人としての基本である接遇マナー、直接現場で成果を出せる対人援助力を持つ支援員として指導を行っていきます。

VI 職員の定着と育成

今年度も数名の入退職がありました。支援経験のない新人や他の事業所からの異動や経験のある者など様々でしたが、標準化に取り組むにはいい機会であったと思います。辞めない環境作りはもちろんのこと、効率化を推進し少数精鋭を目指していきます。

目黒本町福祉工房

施設長 五木田 義之



I 業務の標準化及び一体化による組織力の更なる強化

II 人材の育成と定着への更なる支援

III 目黒本町福祉工房のスケールアップの活用

生活介護事業所、就労継続支援B型事業所がひとつに合併し、当法人の運営となって8年目を迎えました。両事業部が協働し、基準点を確認し、利用者様・職員皆が成長し伸び行く場所でありたいという思いから、一体化・標準化・人材育成という目標を掲げて、本年度運営を進めてきました。年度当初にリーダー間異動を実施し、一層の事業部間の垣根を超えた応援体制や交流が出来ました。特に共通行事である宿泊や本町まつり、自主生産品製造・販売など共有活性化が進みました。一方で、職員定着に課題が残りました。中でも入職6カ月以内での正規職員離職者が3名と多く見られたことから、今後は導入時両事業部で研修期間を設けて適性を把握した上で、配属をするようにしていきます。

IV アメーバ経営の実践

今年度より、アメーバ採算単位がグループ単位に再編され、より採算性が問われるようになりました。結果、総サービス提供高、経費合計の把握を綿密に各グループで実行できるようになりました。指定管理の性格上、しっかりと予算を執行していくことが求められます。特に物品管理及び経費を各グループ単位で案分把握できるようになったことは

今年度の成果の一つです。一方で、今年度初めて取り組む久遠チョコレートの受注作業及び催事にかかる労務時間の予測が立たず、残業時間の増加が見られました。

V 地域社会への貢献

目黒区立のぞみ寮の運営を開始しました。人事異動も実施し、地域生活支援に寄与出来ました。自主生産品生産・販売については、積極的な製造・販売体制を執りました。

久遠チョコレートに関しては、本部からの指示により製造契約を締結し、月10,000枚をヘースに供給体制をとりました。しかし、想定以上に経費が高み、工賃原資の確保には至りませんでした。結果目標とする工賃には届きませんでした。今後は収支分析を行い、利用者様への役割提供に加えて、しつかり工賃に還元していくことが求められます。また質と量の担保も研修や設備投資にて製造環境を整えていくことも必要だと考えます。カレー製造・販売に関しては、さんまるしえでのカレー弁当販売を開始しました(毎日8食/年間1936食見込)。加えて、キッチンカーを駆使し法人内既存ネットワークに加え、すぎなみフェスタやSDGsフードロスイベントなど新規開拓にも尽力し

ました。今後も自主生産品の製造・販売を推進していきます。

工房全体での地域へのイベントとしては第8回目の「本町まつり」を開催できました。従前からの課題であった家族会への負担を軽減するため、今年度初めて任意によるボランティア制を取り入れ、バザー・販売等の負荷軽減と効率的な売上増に一定の成果がありました。今後も家族会に依存的であることから脱却し、自律的運営、参加者皆が気持ちよく楽しめる場にしたと考えます。

イタル成城

施設長 森川正



「生活介護」、「短期入所」、「共同生活援助」の3事業体イタル成城の開設から5年が経過しようとしています。

「生活介護」では本年度1月の新成人祝賀会で、3名の新成人を皆でお祝い致しました。障害区分(平均支援区分5・1)は知的・発達障害と身体障害が主で、重度受け入れ施設として重責を担っている中、開設以来5年連続世田谷美術館で、PLAIN ART 展を開催し、ご家族様ボランティアのお力も借り500名を超えるご来場を

いただきました。また、現状1名ですが、医療的ケアの必要なご利用者様に通所して頂いています。(他ご入院中2名在籍)地域共生として、砧社会福祉協議会と連携し成城3施設(エリザベート成城様・成城つくしんぼ保育園様)共同で地域899(ワクワク)ネットワー

クに年間を通じて参加し、都営住宅共催の季節イベントにも積極的に参加出来ています。(パンブル職員も一体運営成城職員として参加)

「短期入所事業所(みつばち)」は、生活介護同様、知的・発達障害及び身体障害の方の受け入れが主となり、5歳から64歳までの方のご利用をいただいています。

重度区分の利用者様の利用割合は年間を通じ8割強を連続年達成し、幼児と重度対応でみつばちの口コミが増加し、リピーターを増やすことが出来ています。また、今年度後期より医療的ケアの必要な利用者様のご利用を再開し地域のご要望に添えるべく実績を積み重ねています。生活介護との連携促進により生活介護利用者様の利用も堅実な利用実績を重ねています。「共同生活援助事業所(バンブル)」は、知的障害者のユニットと身体障害者の方のユニットに分け、且つ

バックアップ施設として運営しています。

現在医療的ケアの利用者様のご利用はありませんが、前年までは医療的ケアの利用者様もご利用されてきました。(平均支援区分5・6)新たに「いたる訪問看護ステーション」と連携し、安心の担保を増やし且つ、地域の医療機関・訪問看護事業所との医療連携を視野に入れ、連絡会を準備しています。

新たに東京都独自のグループホーム体制強化支援事業にもエントリーし(世田谷区ではバンブルのみ)安定運営に向け布石を打ったところです。

包括ケアセンター・グループホーム

ゼネラルマネジャー 白瀬 則男



I 新規グループホームの開設

宇奈根(アネモネⅡ)5月、世田谷1丁目(プリムラ)を8月に開設しました。宇奈根については当初から入居者が集まるかの懸念がありました。が、予想以上に厳しい状態になり1月現在入居率は50%です。杉並地区の開設については2020年度に2ホームの移動・増員を進めます。のれん分け制度については、将来

独立してグループホームを運営したいという職員はいるが、まだ具体的になつておらず、今後につなげていきます。

II グループリーダーIIサービス管理責任者としての責任

グループリーダーは数値責任を負いながら、サービス管理業務も行ってきました。人員の補充がされソフト入りする時間が軽減されてグループリーダーとしての活動時間が増えて意識が高まり、アメーバ経営についても理解されてきました。

III 海外技能実習生の育成

海外技能実習生が12月に2名配属され、ワルツで夜間帯の業務を行って頂いています。勤務に対する意欲は十分にあるが日本語の習得が課題となります。

IV 世話人・支援員の研修参加

全国グループホーム研修会(千葉・幕張)に2名参加し、東京都の虐待・権利擁護研修にも3名が参加しました。世話人会議において虐待・権利擁護研修伝達研修を4回実施しています。その他世話人研修会等外部研修に世話人が参加したパートナーの研修については内部で虐待防止研修を1回行いました。全体的な総括としては、現状

のグループホーム人員不足は解消されてきました。次年度グループホーム開設に向け補充も行ってきています。ただ、世田谷地区に関しては一部人員不足および人材の育成ができていません。また、世田谷地区のグループホームについては入居者が定員に達していないところが多く、次年度に充足率を上げるのが課題となります。世話人・生活支援員については、研修および勉強会を行いながら知識・支援の向上をはかっていきます。

次年度は新ホーム開設に合わせて職員・入居者の異動(移動)を考えながら、より良い職場環境を作っていく、アメーバ経営の観点から世話人の理解できる方に働きかけていきます。

ピヨピヨおうちえん

所長 花山 隆洋



本年度は、ピヨピヨおうちえん(本園)が小規模型事業所内保育所としてスタートし4年目となり、過去3年の運営実績を踏まえ、更に「安全・安心」の保育の実践及び、質の向上に努めました。また、施設の「地域開放事業」を年2回(R1/9/28、R2/1/25)実施し、地域の方々に子育て支援施設を実

験していただく機会を提供しました。開設2年目の小規模保育所ピヨピヨおうちえん荻窪駅前(駅前園)は、安心して預けられる保育園として地域の皆様にさらえられ活動できたことです。また、両園の相互交流を積極的に実施し、補完体制の構築を進められたことが大きな成果でした。

パン工房ブクブク

統括施設長 荒川 善夫



2019年度最大の事業貢献は杉並区立の全ての保育園へのパン納品が確立したことです。地道に行ってきた営業努力が身を結び、2019年6月から給食用とおやつにブクブクのパンを採用して頂いております。受注生産のため安定した生産体制が組めるようになり、イベント販売の予定を除けば安定した生産が出来ています。今後は利用者様中心の作業に転換していくことで、さらなる効率化を図っていきます。利用者様による活動は、保育以外のパン生産やイベントや定期的な外部販売活動に注力していただいております。個人の方に合った就労支援を行っています。

次に大きな変化としては久遠

チヨコレート浜田山店の出店です。当初年度初めに計画していましたが、立地等熟慮の未浜田山という好立地の物件に巡り合え、約半年遅れではありましたが浜田山駅前という好立地に出来るようになりました。杉並区に新しい名所が出来たと思えるようなお店にしてまいりたいと思っております。原価率が高く黒字化が難しい事業ですが、自社生産品の売上比率を多くすること、利用者様それぞれの能力に応じた適正な作業分担任を行うことで、黒字化が可能であると考えています。パン事業部の失敗を繰り返さないよう、A型に相応しい利用者様確保を進め、職員による製造販売ではなく、利用者様による製造販売に徐々に切り替えてまいります。パン事業とチヨコ事業を併せれば月商は約1千万円強になります。解決していかなければならない課題はありますが、それをクリアすることで横範的なA型事業所にする事が可能であると確信しています。

アメーバ経営の進捗では就労A型事業部に大きな成果があったと思います。アメーバ単位の5部門を設定し、採算を部門ごとに追いかけるようになった点が成果であると考えます。

新型コロナウイルス感染症拡大にともなう 法人運営の考え方

2020年3月13日に「新型インフルエンザ等対策特別措置法(以下特措法)」の改正法が成立し、新型コロナウイルス感染症(令和2年1月に中国より世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る)にも適用されました。

これにより、「緊急事態宣言」が出された際には、対象地域の都道府県知事は、住民に対し、生活の維持に必要な場合を除いて、外出の自粛をはじめ、感染の防止に必要な協力を要請できるようになります。

「緊急事態宣言」主な内容は、検疫のための停留施設の使用、医療関係者への医療等の実施の要請等、不要不急の外出の自粛要請、学校、興行場等の使用等制限等の要請等、臨時の医療施設の開設のための土地等の使用、緊急物資の運送等、特定物資の売渡しの要請といった、新型コロナウイルスのまん延の防止、医療の確保、国民生活の安定のための施策です。

実際の要請または指示を発出する権限は、緊急事態宣言が出された区域の都道府県知事(特定都道府県知事という)にあり、社会福祉法人いたるセンターも、都知事の要請及び指示に従い、施設の開所の判断等を行います。

(2020年3月31日現在)

法人見学ツアーについて

日程：4/16・4/30・5/7・5/21・6/11・6/25(すべて木曜日)

時間：10:00~12:30

集合：阿佐谷福祉工房(杉並区天沼1-15-18)

※ツアー開催の有無やご参加については、下記にご連絡の上、必ずご確認ください。

電話：03-3392-7346

本部・採用担当
山本義彦まで



いたる広報委員

発行責任者=谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/2020年4月13日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。

